

【会長賞②：中学生の部】

「やさしさのハイタッチ」

山口県・周防大島町立大島中学校
2年 神戸 華子 さん

私達の通う中学校の隣に、障害福祉サービス事業所「さつき園」があります。この施設には、周防大島町内外から、知的障害者約50人が通園していて、主に古着を加工してウエスを作ったり、畑で農作物を育てています。大島の特産品であるみかんの収穫時期には、缶詰やゼリーにする為のみかんの皮むきも大事な仕事の一つだそうです。

去年の冬、私達はさつき園の作業のお手伝いに行きました。施設の方々とは、運動会で一緒にフライングディスクを楽しんだりしたことがありますが、初めて施設で仕事を手伝うということに私は少し緊張していました。

園内に入ると、色々な言葉が飛び交っていてとてもにぎやかでした。

「琴奨菊強いよ！絶対勝つよ！！」とずっと独り言を言っている年配の男性や、新聞紙の切れ端を「宝物」と言って大事そうに集めている人もいて、その普段見慣れない光景は、正直私にとって「不思議の国」でした。

でも、しばらくその人達の楽しそうな笑顔を見ていて、ふと自分も同じ様なことをしているかも？と思い当たることができました。

私も自分では気が付かないうちに、独り言をつぶやいていることがあってハッとします。他人にとっては捨ててしまう様なつまらないものを大事に取ってある引き出しがあります。そう考えてみると、彼らは何も特別な事をしている訳ではないのではないのかと思えてきました。

私達は小さなプライドや恥ずかしいと言う気持ちから、自分の思いや言動をセーブしてしまいますが、彼らは見栄を張ることもなければ、引け目を感じることもなく、ただただ素直に自分の感情を出せる純粋な人達なんだと気付かされた気がしました。引き出しの掃除をする母に「ゴミはゴミ箱」と毎日叱られている私としては、一生懸命に切れ端をしまっている彼に「頑張れ！！」と応援したくなる程、彼らを身近に感じられるようになっていました。

そうして気持ちが楽になると、すぐに友達も出来ました。お互い下の名前で呼び合いながら畑の手入れをしたり、ウエスを作っているとあっという間に時間が過ぎていきました。

最後にバスで帰宅する施設の人達をみんなで並んで見送っていた時、自転車

で通園している男の人が、笑顔で片手を上げ、見送りの列の私達全員とハイタッチをして元気に帰って行きました。その時私は、何か心の中に輪郭のないホワっとした温かいものを感じました。欲しかったものを買ってもらった時とは違う混じりっ気のない満足感で、自分がとても素直で優しい気持ちになれた気がしました。私だけでなく、見送りをしていたみんなもきっと同じ気持ちだったと思います。

以前、インターネット上にある団体の代表の方が障害者へメッセージを載せていたのを思い出しました。

長い文章でしたがとても印象に残っている一文があります。

「あなた達は周りの人を笑顔にしたり、優しい気持ちにする為に生まれて来たのです！」

その時は素敵な言葉だなあと思って覚えていただけでしたが、こうして実際に障害者の方々とふれ合ったことで、改めてこのメッセージに感動しました。

私達と障害がある人達とは何かが違うんだという思い込みをしていた私にとって、この体験はとても意味のある時間でした。私達と何も変わらないことや、真っすぐに優しい気持ちを教えてもらったことで、この気持ちをもっとたくさんの人に体験してもらいたいと思いました。

思い込みや偏見をなくし、障害がある人が広く受け入れられる優しい社会になればいいなと心から願っています。